

UNCCA設立 10周年記念寄稿

幹事 齋藤 護 (宇部市)

宇部市地球温暖化対策ネットワーク設立 10周年、本当におめでとうございます。私は、2002年のネットワーク設立時、当時の環境共生課（現環境政策課）に所属しておりまして、設立の準備段階から、事務局スタッフの一員として働かせていただきました。

当時の地球温暖化に関わる諸問題は、一般市民の間ではさほど意識が高くない時代でしたが、持続可能な社会の構築に向け、ネットワーク設立準備会に集まったメンバー間での白熱した議論は今でも鮮明に覚えています。また、私個人としまして、地球温暖化対策というグローバルな視点を持ちながらも生活者に密着した活動に携わることができたこと、また、この時期に関わった環境分野を中心とした熱意ある多くの方々に出会えたことは、以降の私自身の生き方にも大きなプラスとなりました。

ネットワークの記念すべき最初の事業は、環境省からの助成と山口県地球温暖化防止活動推進センターの協力をいただきながら実施した「地域協議会温暖化対策モデル事業・脱温暖化モデルプロジェクト」でした。これは、宇部市内の民生・運輸部門における地球温暖化対策事業をモデル的に実施して、市民への普及啓発や収集したデータをその後の施策に反映させることを目的としたものです。具体的には、「省エネナビモニター事業」「燃費ナビモニター事業」「市内一斉ノーマイカーデー」の3つの事業に取り組んだのですが、省エネやノーマイカーに対する意識が低かった当時であって、これらモデル事業は、その後のネットワークの事業展開の礎になったのではないかと感じています。

その後もネットワークは、地球温暖化対策や環境・エネルギー問題に対する市民の自発的な取組を促すことを中心とした新規事業を次々と立ち上げられ、先駆的な取組を継続発展されてこられました。その成果がこの記念すべき10周年に現れていると思います。

この10年間で、当時には予測できなかった大きな社会変化が起きました。私たちを取り巻く状況は厳しさを増す一方ですが、次世代を支える子供達のため、地道ながらも住民と共に歩みながら私達の地域社会をより良く変える取組を期待するとともに、その活動に微力ながらもお手伝いしていきたいと思っています。



「地域協議会温暖化対策モデル事業・脱温暖化モデルプロジェクト」報告書